交流

発行日:平成25年2月10日 第14号
福島日中文化交流会　事務連絡先
〒960-0613 福島県伊達市保原町字内町21-5
Tel/Fax 024-575-2071 携帯:090-2360-3275
Email:mayumi_mihojp@yahoo.co.jp
URL:http://www.rizhongwenhua.com

新年あけましておめでとうございます。

福島日中文化交流会　会長　岩間真弓

梅の花が咲きほころぶ季節となり、会員の皆さまにおかれましては、お健やかに新年を迎えられたこととお慶びを申し上げます。

昨年は、日中国交正常化４０周年を迎え、我が福島日中文化交流会では、日本と中国の互いの友好を願い、また、福島復興のためにコンサートを開催し６００人を動員いたしました。４０周年という節目の年に、このような結束の固い活動ができましたことは、ひとえに会員の皆様方のご協力の賜と思っております。感謝申し上げます。

一昨年より日中両国は、国交正常化以来の最悪の事態となり、長年日中友好運動をしてきた人たちにとっては、大変心の痛む問題が続発し、人の往来が激減し経済方面においても文化方面においても大変なダメージを受けました。このような事態は、友好を願う私たちにとって本意ではありません。つまりは、民間レベルの交流の継続が国と国の関係改善の糸口になると考えます。

国際交流とは、最初に相手への理解から始まります。互いの言語の違いもさることながら、生活習慣、食生活、教育、文化、歴史、思想の違いなどから自分では常識と思うことがそうではないことが多々あります。しかし、その中でも心が通じ合え、更には相手に学ぶことも多く、互いの心と心の絆が深まっていくものと思います。

コンサートの時には、中国駐新潟総領事館の鐘発麗領事が、日本と中国の問題が山積する中、遠路来賓としてお越しいただきました。私たちとの友情を重んじでいただいたものと理解しております。繋がりは、人と人です。友人としての繋がりは、どんなマスメディアにも自分の考えを翻弄されることはありません。我が福島日中文化交流会は、引き続き、真の中国の姿を見つめ、これからも大切な隣人である中国との友好を育んで行きたいと思います。

さて、２０１３年の当福島日中文化交流会の活動は、交流会などを通して、家族のように一緒に食事をしたりし、仲よく楽しく過ごすことができればと願っております。

どうぞ、会員のみなさまが今年も健康で実りある一年でありますようにお祈り申し上げます。

遼寧師範大学短期留学
～在大連学汉语～

菅野隼人

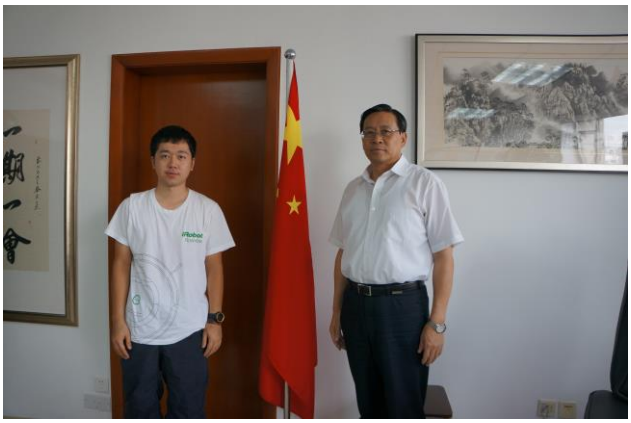
〇8月26日から10月3日まで、大連市を中心として中国に滞在しました。

場所：中国遼寧省師範大学
期間：9月3日から9月27日まで
内容：月曜日から金曜日の8：00から11：35まで2コマ
口语、精读、读报纸、听力の授業。
分班試験を受けて中級一班のクラスに入り、
授業は全て中国語で行われた。
クラスは韓国人6人、日本人4人、デンマーク人1人、イタリア人1人、フランス人1人の13人。
木曜日の午後は太極拳の授業に参加した。

学生寮 5 号楼、440 号室。
相部屋で 1 泊 50 元。

寮を出るとすぐ果物屋や小吃のお店、食堂が並ぶ通りに出ます。昼も夜も賑わっていました。中でも新疆伴面が気に入りました。ボリュームもあって野菜も取れます。

中山公園で太極拳をする方々。
休憩がてら座って見てました。



今回留学を手伝ってくださった、大連市人力資源社会保障局の局長于建军さん。
また、大連市人民政府台湾事務室の原柏令さんとお会いできました。

9 月 7 日
开学典礼

訓練を受ける学生。キャンパス内にて。
銃を構える訓練を受けている人もいました。

大連駅近くのデパートが立ち並ぶ繁華街。

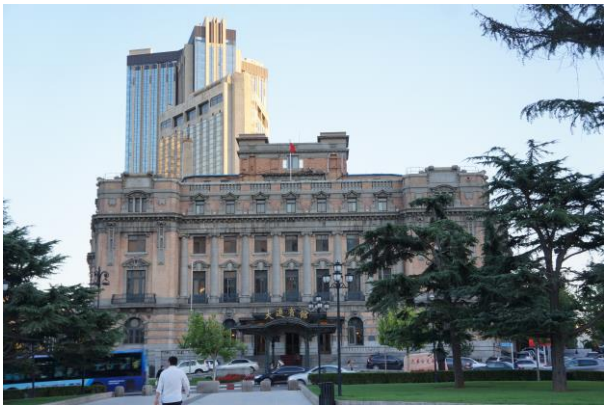
大連国際ファッション祭り。
日本人のモデルもランウェイを歩きました。

大連駅。上野駅をモチーフとしている。

学生寮の日本人と韓国人で食事会。本科生も含めると、3 分の 2 ほどが韓国人だそうです。

大連駅を背にした景色。
建設中のビルがたくさんありました。

小川さんと京劇を見に行きました。



大连宾馆（旧ヤマトホテル）

中級一班のクラスメート。
みんな優しくてとても有意義な時を過ごせました。

中級五班の日本人がお別れ会を開いてくれました。
黒魚のしゃぶしゃぶを食べました。

韓国人の同学が帰国前にご飯に誘ってくれました。

大学で午前中の授業が終わった後、週 2 回ほどのペースで中国語教室に通いました。

〇9 月 30 日から 10 月 2 日まで、2 泊 3 日の丹东旅行へ出かけました。
　日本人 4 人と中国人大学生 1 人の 5 人。
写真の右が丹东、左が北朝鮮。

夜になると橋の向こう側は真っ暗になります。
丹东は観光客で大賑わい。

丹东に万里の長城の端があるということで、連れていってもらいました。

留学で学んだこと

今回の留学の目的は、約1か月遼寧師範大学で中国語、並びに中国文化を学び、日本語教師の活動をより充実させることである。現地で生活してみなければ意識しないことがあった。例えば満州事変が（1931年9月18日）起こった日には、空襲警報と思われるほど大きなサイレンが街中に響き渡り、国慶節の際には道路や車のいたるところに中国の国旗が掲げられることなどである。

しかし、大連に住む中国人は、私が何人かと聞かれて日本人だと答えても、笑顔で話してくれた。領土問題で両国の摩擦が大きくなっていくような報道がされていたように感じたが、大連はデモや集会などが一度もなく、とても快適に過ごすことができた。大連は以前から日本とは親交のある街だからだとも言える。ただし、9月18日は日系企業が会社を休みにして、社員を自宅待機させるところが多かったようだ。

私のクラスは5か国の人からなり、共通語は中国語である。初めはコミュニケーションがお互いほとんど取れず、伝えたいことの2割も話せなかった。それでも身振り手振りや、授業で習った単語を並べてみるなどできる限りのことをして、9月中頃には会話の機会がますます増えていった。また、大学寮の同じ階に住む人たちとは次第に顔なじみが増えていき、私は韓国人と話すことが度々あった。どうしても話したい内容の中国語がでてこないときは、日本語を話せる韓国人に日本語を使い、できるだけコミュニケーションを取ろうと心掛けた。中国語、韓国語、日本語の3か国語で話をするということはよくあった。

また、相互学習というものがあり、これは日本人が中国人に日本語を教え、中国人が日本人に中国語を教えるというプログラムである。私は大学を卒業して社会人になった中国人の会社寮に行き、ご飯を食べながら日常会話をした。その中国人は会社で日本人と仕事をすることがよくあるので、これからも日本語を勉強したいということだった。話の中で、日本という国や政治は嫌いだが、日本人個人としては友達になりたいという気持ちを聞くことができた。

中国のメディアを見て思うに、日本を批判するような内容の番組もいくつかあったように思われる。研修中にＮＨＫの報道が止まったようだ。中国からインターネットで日本の検索エンジンが見られないということも驚きだった。日本はどうだろうか。連日反日デモの様子などがメディアで報道されたようであるが、その一部の過激な場面を見て、中国人全員を捉えてしまってはいないだろうか。大連にいる限り、自分が外国人であるということを自覚して、日本人同士で集まって街中で大きな声で話さないなどの最低限の注意をしていれば、危険な目に遭うことはなかった。むしろたくさんの中国人の優しさに触れて、私はまた中国に来たいと思うようになった。今後、日本人の中国人に対する見方、中国人の日本人に対する見方が過熱的に偏らないように、自分の考えを改めるともに、身近な活動から両国の誤解を解消していきたい。

忘年会

平成 12 年 12 月 2 日開催

（涂娟さん）

2012 年　忘年会（土湯温泉）にて

涂娟

今年の 4 月に娘が中国語教室に通い始めてから今年もあっという間に 12 月になってしまいました。

今回が初めての忘年会でもあり宴会前から楽しみにしていました。

旅館に着いて早々に感心したのが、岩間先生が大きな荷物を持ち込んで来たことです。その中にいったい何が入っているのかなあと思いましたが、余興で使う楽器で一杯でした。

宴会が始まり、参加者による日本舞踊やカラオケ、そして先生が準備されたゲーム等があって、とても楽しく賑やかな宴会でした。

その中でも特に印象に残ったのが、主人の会社でかつて上司だった加藤さんの中国の歌がうまかったことに驚いたことや、10 年来の友人：張さんが酒豪だったことも今回の忘年会で初めてわかりました。

それと、岩間先生が飼っている「カメチャン」という亀さんがゲームにゲスト出演したりなど、色々な余興で大変盛り上がりました。

また、岩間先生が持って来られた葫芦糸の音色が素敵でした。今度は曲の演奏を楽しみにしています。

宴会料理もテーブル一杯に敷き詰められ、豪華で美味しい和風料理を満喫できました。

宴会最後のプレゼント交換でもいいものをゲットできたり等、本当に楽しいひと時をすごすことができました。

（カメラマンも出来る加藤一朗さん）

（今年も見事な演舞を披露してくれた

柳澤美佐子さん（上下とも）

コンサート

平成 24 年 12 月 9 日開催

顧問挨拶

高橋重夫

皆さま、今日は足元の悪い中お越しいただき、会を代表して厚く御礼申し上げます。特に後援を頂いた、中国新潟領事館から副領事がお出でいただいたこと、改めて御礼申し上げます。

さて、今年は戦後、日本と中国の国交が正常化して 40 年という節目の年です。本来でしたら、日本でも、中国でも賑やかに、華やかに様々な催しが展開されるはずでしたが、まことに残念ですが、現在は、日中お互いの国民の心がすれ違っております。

しかし、考えてみると、私たち日本人の身の回りには中国から頂いたものが、なんと数多く満ち満ちているか言うことです。皆さんのお手元のプログラムにも漢字が使われております。文字はまさに中国からの伝来です。また、仏教、儒教などの思想、西遊記、三国志などの物語、納豆、豆腐などの食べ物も中国から伝わっております。このように日中両国は歴史が始まってから、ことによると歴史以前から数千年にわたって交流し、ことに日本は中国より伝来した文化を日本流に改変し、現在ではあたかも日本古来のものであるかのように、享受し活用しているのです。

そのように考えますと、現在の冷えた関係が永久に続くことは考えられません。まして海ひとつを隔てた両国がこの先、百年、千年、未来永劫仲良く交流していくことが大事ではないかと、私たちは考えています。

私ども福島日中文化交流会は、日々、日中の皆さんが楽しく、仲良く交流を深めるべく活動しております。お手元に会の資料もお配りしましたが、中国語の勉強会はもう 20 年になりました。また、太極拳に似た花架拳、楽しい健康マージャン、その他、県や市の国際交流協会の主催行事にも積極的に参加し、身の回りの文化の交流を通して、日中の皆さんが楽しく、仲良く相互理解を深めることを目的に活動しております。

本日は、そのような活動の一環としてチャリティーコンサートを開催いたしました。どうぞ最後まで楽しんでいただきたいと思います。最後になりましたが、また日中両国が、国交が正常化した当初のように、お互いが熱く「你好」と挨拶を交し合えるようになることを祈念いたしまして開会のご挨拶といたします。本日はありがとうございました。

（リハーサル風景）

高山流水遇知音

---音乐会有感　　李淑薇

2012 年 12 月 9 日，福岛市音乐堂召开了为纪念中日邦交正常化 40 周年以及为支援复兴事业而举行的中国民族音乐义演。这一天，福岛市虽然是雪花纷飞，但为中日文化交流，为欣赏中国民族音乐的来客却接踵而来。

灯色柔和的音乐堂里，舞台背后是巨大的管风琴。首先是古筝的弹奏者--叶根青和琵琶弹奏者--何欢弹出欢快的旋律，以«喜洋洋»的氛围，拉开了音乐会的帷幕，接着是琵琶独奏«送我一枝玫瑰花 »、古筝独奏«高山流水»、马头琴演奏«草原之风»等……

最后，在一片的喝彩声中，几种民族乐器合演了大家熟悉的、脍炙人口的[川の流れのように]、「上を向いて」，每个音符都激励着每一个观众，每个节拍都

颤动着每个人的心弦，顿时全场气氛是多么的和谐和融洽,乐声缭绕把在场的每个人的心紧紧地系在了一起。

在演奏曲当中，我特别欣赏«高山流水»，也许是演奏者的轻灵曼妙拨动着的琴弦，时而浑圆厚重如同崇山峻岭;时而清脆悦耳如山泉奔流,让人心旷神怡，达到了乐中有诗的缘故。然而音乐的魅力不仅如此，她更让我想起“高山流水”的深远含义。

传说先秦的琴师伯牙一次在荒山野地弹琴，樵夫钟子期竟能领会这是描绘“巍巍乎志在高山”和“洋洋乎志在流水”。伯牙惊道：“善哉，子之心而与吾心同。”钟子期死后，伯牙痛失知音，摔琴绝弦，终身不操，故有高山流水之曲。“高山流水”比喻知己或知音，也比喻乐曲高妙。

回想 40 年前，从周恩来总理有力地紧握着田中角荣首相的手的那一刻开始，两国已经产生了共鸣，就如同邂逅的知音。从此,谱写了中日友好的新乐章……

一踏进音乐堂，跃然眼前的是熟悉的脸孔、厮守多年的学生和中国朋友等，他们为了接待，在台前幕后奔忙;为了演出的成功，愿意默默地献出自己的热忱和力量。不，甚至在筹办的阶段对每个环节都已经做了精心的安排。我在想:他们何尝不是对中日友好有共识的伯牙与子期吗？尽管高山也有乌云滚滚，流水也有暗礁旋涡，但只要我们通过不懈的努力,中日之间一定会弹奏出一曲更美妙动听的«高山流水»,遇到更多的心心相通的知音。

写在2013年的前夕

（演奏風景）

高山流水遇知音

--コンサートに思う　　李淑薇

2012 年 12 月 9 日、福島市音楽堂で日中国交正常化40周年記念と併せて復興支援のためのチャリティーコンサートが開かれました。その日、福島市は雪の舞う生憎の空模様でしたが、日中文化の交流のため、中国民族音楽を鑑賞するために多くの人たちが続々と訪れました。

柔らかな灯火の音楽堂の中には、舞台後方に大きなパイプオルガンが設置されています。最初に演奏者は、古箏の葉根青さんと琵琶の何歓さんがつむぎだす浮き浮きさせる旋律、«喜洋洋»の雰囲気によって、音楽会の幕は開かれました。続いては琵琶の独奏«送我一枝玫瑰花 »、古箏の独奏«高山流水»、馬頭琴の演奏«草原之风»等等・・・・。

最後に、会場中の喝采の中、多くの人たちに親しまれ、口ずさまれている「川の流れのように」、「上を向いて歩こう」が数種類の中国民族楽器により合同演奏され、その一つ一つの音符は聴衆の心を励まし、奏でられるメロディーは聞く人々心の琴線を揺り動かし、たちまち会場の雰囲気を和ませ、ひとつに解け合わせ、歌声は会場全ての人々の心を固くひとつに結び付けました。

演奏曲目の中で、私が特に聞き入ったのは«高山流水»でした。それは演奏者の卓越した弦の調べが、あたかも高山の峰の連なりを見るようで、あたかも泉から流れる清流のように耳に心地よく、心を広々とさせ、曲の中にある物語を見せてくれた為かもしれません。しかし音楽の魅力はそれだけに留まらず、その音楽は私に“高山流水”の深遠な意味を思い起こさせました。

言い伝えによると秦の琴師伯牙は一度荒山の地で琴を弾きました。樵の钟子期は驚くことにその曲を聴いて、「巍巍たる高山」と「洋々たる流水」を描くことが出来ました。伯牙は驚いて言いました。「素晴らしいことです。あなたの心と私の心は一緒です。」钟子期の死後、伯牙は自分の心を知ってくれる友を喪った事を嘆き、琴を投げ捨て、弦を断ち切り、生涯二度と演奏することはありませんでした。これが高山流水の曲の謂れです。“高山流水”は知己、知

音を例え、音曲の巧妙さを例えています。

思えば40年前、周恩来首相と田中角栄首相が力強くしっかりと握手したあの時から、両国の共感が生まれ、お互いを良く知るための出会いが始まりました。それ以来、日中友好の新たな楽章が書き始められ・・・・・。

一歩音楽堂に踏み入れれば、よく知っている人たち、長年支え合った学生と中国の友人たちがはっきりと眼に留まりました。彼らは、接待のため、コンサートの成功のため舞台の周りを忙しく立ち働き、黙々と自分の真心と能力を捧げていました。いいえ、それは目の前の立ち働きだけでなく、準備段階の細かな繋がりにさえ丁寧に配慮されていました。私は思いました。:彼らは日中友好の共通認識を持つ伯牙と钟子期ではないでしょうか？高山にも黒雲がわき、流水にも暗礁が渦巻くのですけれど、しかし、私たちが不断の努力を通い合わせれば、日中の間にはきっと更に妙なる感動的な«高山流水»が演奏され、更に多くの心通じ合う知音と出会える事が出来るのです。

2013年の前夕に記す

（訳　中級班）

（日中の友好と福島の復興を願って）

（この客席がやがて満杯に）

民族音楽に大感動

高橋雄三

毎月第2日曜はマージャンの日、と思っていたら12月9日（日）は、チャリティーコンサート「つながろう心の輪」の日であった。

家内と長女紀子の亭主を含め、わが家総勢3名は、定刻の30分前には音楽堂に到着した。

天気は悪いし、日中関係の雲ゆきもあやしい。わが福島日中文化交流会主催なのに、客が少ないと格好がつかないなあ……なんて心配は無用であった。満席にはならなかったが、ざっと見て600人ぐらいは入っている。

いよいよ開演。初めて聞く中国の古箏と琵琶、その多彩な音色と叶根青さんと何歓さんの超絶技法にはびっくり。これほどドラマチックな演奏ができるとは……うーむ、中国6千年畏るべし。

次のモリトンモンゴル4兄弟の馬頭琴と揚琴もすばらしかったが、ホーミーにはさらに驚いた。歌唱というより、その奇っ怪な発声は、まさに人体楽器の演奏である。

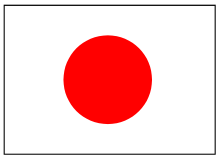
目を閉じれば、ラマ教寺院の読経の声が、山のかなたから風に乗って聞こえてきたようであった。

そうだ！これを大相撲でやったらいいかも知れない。モンゴル力士が優勝しても君が代だけでは、かわいそうである。優勝力士の故郷の歌を君が代の次に流したら、大相撲も一気に国際化するに違いない。

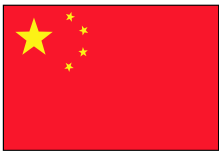
モンゴル力士ならホーミー、スペインはフラメンコ、日本人は県別で、福島県は会津磐梯山、相馬盆唄、飯坂小唄あたりか。

それはさておき、日中国交のさらなる正常化を願いつつ、感動と陶酔の「つながろう心の輪」2時間半であった。

（モリトン・モンゴルの皆さんと
叶青根さん（右から３人目）何歓さん（右から２人目））



お知らせ



いつも福島日中文化交流会へのご支持とご協力感謝申し上げます。

平成２４年度の会費及び各種会費納入のお願い

下記へよろしくお願いいたします。

会費納入について

(1)　郵便局振込みの場合(お近くの郵便局で)
　02220-7-105525　福島日中文化交流会

(2)　銀行振り込みの場合
　振　込　先:普通預金　東邦銀行保原支店
　口座番号:733649
　名　義　人:福島日中文化交流会
　　代表幹事　岩間真弓
　住　　所:〒960-0613
　　伊達市保原町字内町 21-5

(3)　会費について
　法人会員　10,000 円　　個人会員　　3,000 円
　中国人会員　500 円

中国語会話教室からお知らせ

◎　中国語会話教室第42期募集開始！

日時:平成25年4月～平成 25年9月
場所:福島市中央学習センター
内容:

入門
講師:岩間真弓
毎週木曜日午後6時 00 分～7時 00 分

初級
講師:岩間真弓
毎週木曜日午後7時15分～8時45分

中級
講師:李淑薇
毎週火曜日午後6時 30 分～8時 30 分

費用:一ヶ月 3,000×6 ヶ月＝18,000 円
※一クラス分の授業料で 3 クラス受講可能
※各クラス授業日は都合により変更する場合あり。

◎第79回中国語検定試験開催

日時:平成25年3月24日(日)
場所:福島テルサ
内容:準 4 級･4 級･3 級･2 級･準 1 級

「当面の行事のお知らせ」

1　花架拳教室
日時:毎月第2日曜日(都合により変更もある)
場所:福島市中央学習センター
内容:護身術である花架拳を演舞する
費用:1 年分　9,600 円(800 円×入会月から)
講師:日本花架拳学会　飯田加寿子

2　健康マージャン教室
日時:毎月第2日曜日(都合により変更もある)
場所:福島市中央学習センター
費用:1 年分　6,000 円(500 円×入会月から)
内容:吸わない･飲まない･賭けない健康なマージャン

3　日本語教室

日時:毎週木曜日 16:00～17:30
場所:福島市中央学習センター

講師募集！
内容:中国人に日本語を教える
＊講師料はお支払いできません。教科書各自負担。

4　健康マージャン大会
日時:3 月 31 日(日)
場所:雀荘　しのぶ
費用:1500 円(昼食代別)
賞品もあります。奮ってご参加下さい。

訃報

平成 25 年 1 月 11 日に会員の山尾展正さんがご逝去されました。

生前の会に対してのご尽力に感謝申し上げると共に、ご冥福をお祈り申し上げます。

≪編集後記≫
もうすく新年度を迎えます。新年度も会報、よろしくお願いします。

(編集担当)